

## 編集後記

みなさま、日本社会医学会の機関誌「社会医学研究」第 27 卷 2 号に掲載された質の高い原著論文をご覧ください。

高阪らは、中高年期における、SOC と健康関連習慣の関連性を検討し、SOC 得点の高い人は、食事や運動に関して良い健康習慣を行っているとともに、SOC 得点の高い人が摂りやすいストレス対処方略と、摂りにくいストレス対処方略を明らかにしています。

勝山らは、小児科、産婦人科を中心とする二次医療圏内の受療割合を通じて地域医療の再生の要因を解析し、県二次医療圏の区分の画定は、必ずしも適切でなく、重複する地域が存在することを配慮した生活診療圏として計画を策定する意義を提案しています。

谷口らは、5 年間にわたり実践してきた保育施設における新たなノロウイルス (NV) 集団発生防止対策を示し、保育園 44 園における NV 集団発生を 15 事例から 2 事例へと著しく減少させ、関係者の感染症予防への意識と行動の変化が寄与したことを報告しています。

田中は、2007 年より 2 年間、週末の繁華街街頭において少年たちに対して聞き取り調査を行い、著しく健康を脅かされていると思われる深刻なケースについて検討し、家庭、学校に居場所がない子どもはつながりを求め、深夜の繁華街に出てくることで、違法風俗店や薬物などのブラック・マーケットとのつながりが築かれること、児童虐待を受けている者も認められとともに、親権・監護権者や教師との関係が良好な子どもにも虐待傾向は認められることを報告しています。

坊迫らは、65 歳以上 4,779 名を対象として、教育歴、収入、主観的指標として幸福感、生活満足感、主観的健康感の関連を構造的に分析し、『生活満足感』と『幸福感』では、『生活満足感』の方が『幸福感』に比べ『等価収入』との関連が大きかったことを報告しています。

堀米らは、ヒヤリ・ハット、介護事故の発生要因の分析として、施設利用者入所者 407 名を対象に調査を行い、「性別」、「年齢」、「介護度」、「第一発見者」、「介護中の事故」、「報告者の職種」という属性ではヒヤリ・ハット数から事故数を予測することができたことを報告しています。

いずれの論文も、人が豊かに生きるための社会的なしくみづくりに活用できる意義ある論文ではないかと思えます。

今回は、念願でありました年間二号の学会誌発行が 2 年連続で実現しました。多くの皆さまからの投稿に心からの感謝を申し上げます。また、ご多忙中にもかかわらず、査読いただきました先生方には心より感謝いたします。また、全てのプロセスにおいて、宮尾先生には多大なるご支援をいただきました。心より感謝いたします。

今後は、各号の投稿論文の中から、優れた二編について、英文原著論文として翻訳してウェブに掲載し、世界に発信できることが、理事会で確定しました。素晴らしいことだと思います。

今後とも、会員の皆さまから、健康課題を社会医学的に捉えた、意義のある質の高い論文が投稿されますことを心より期待しています。引き続きよろしく申し上げます。

社会医学研究・編集長 星 旦二

## 査読者一覧 (五十音順：敬称略)

下記の査読者の熱心な査読で、本号が完成しました。ここから、感謝申し上げます。

櫻井 尚子  
星 旦二  
広瀬 俊雄  
波川 京子  
松岡智恵子  
中山 直子